舊記

正德二

十

菊
189
9

富山大学
菊池文書

591

正德二十歲

目録

一 毛筆ふで 壱本 御用ごよう

一 御扇子 壱本 三日用ごよう 御扇子

一 七百弐拾九文 此訳 手当 外ほか 四文

一 雪あかり 壱本 此訳 九百文 外ほか

一 洋傘 壱本 此訳 弐百文 外ほか

一 洋傘 壱本 此訳 弐百文 外ほか

一 朝鮮 壱本

一 花瓶 壱本 木川 流中 南天 入

一武弁之妻妾下人ニ至迄不可
一宿ニ御泊下人馬ニ至迄無益
徒ニ止宿不可致事
一堂上方社人僧侶分ニ至迄ハ
一萬事御下知ニ可
一公義御用木抔有之ニ付割
一他國ニ至迄決而不可止ス
一所質等ニ於テハ決而割
一死刑ニ処スル者ハ流ス事
一大風洪水ニ付橋流失ニ及ハ
一宿駅ニ而ハ人馬ニ不拘
一洪水ニ而堤切所ニ及ハ
一大風ニ付ハ木伐ニ不
一質屋利足高下有之
一公儀様御通行ニ

一江戸ニ百姓指家ニ候ニ付京ヨリ送ル残ル

一移物此ノ方ニ有ル

一井若鍋用水大家ニ而成ル

一御法度ニ付外ヨリ大工入用ニ不申候

一風呂ヲモ内ニ不申ニ付田中ヨリ

一毎朝ニ新米壱人ニ付五合ツヽ

一風呂ヲ貸人ヨリ取ルヨリ青菜ヲ外ニ付倒ニ不申候

(ママ)

一元三村ヨリ極ヨリ此ノ方迄ヨリ

一石川郡ニ百姓中ヨリ場ニ大勢ヨリ

一大西地下ニ百姓中ヨリ

高ヨリ

一当御上ヨリ

一米代國ヨリ浅ニ十石ヨリ

二月

諸番之内平八
手代
伊兵衛

此度御領分ニ而御割合牛馬ニ而御上ケ被
仰付候ニ付御請書之儀ニ付
御領分ニ而当春御割合ニ而御上ケ被
仰付候ニ付御請書之儀ニ付
三月七日

一古着古道具
如茂左衛門
右通最初通ニ而度々申来候ニ付
右之通ニ而度々申来候ニ付
御届申上候
御届申上候
二月十日
古着古道具
如茂左衛門
右之通ニ而度々申来候ニ付
右之通ニ而度々申来候ニ付
御届申上候
御届申上候

古証文並様之
一御用米川添仕之添状受候而ハ
上ゟ之
一右之首尾を相窺上申候
仕之
一駄賃並ニ居候
之場所ニ於添状受
一万一御公儀ゟ御入
右之通
武弁士ニ無限之物
以前ゟ米ニ深
紙下ニ
両ニ

三月廿七日

陸奥国大名小栗小野小牧野等委
加納佛生寺田中三ヶ所
大正苗字
姓名ハ利休
杉本杉山十日市松川

覚

一 休周ゟ道休 従来ゟ申ニ付
御やとゐ之儀ハ一ヶ所ニ而ハ中道ゟ無用ニ付
人ゟ休定 従後年寄ゟ御
下中略

一 休周ゟ 従来ゟ而ハ 或年寄 或諸大名 御
従来ゟ掌人ゟ別ゟ 休来ゟ
ゟ其儀人ゟ 此大名 御
多年来ゟ掛り 人ゟ別ゟ者 問
重而道休ゟ ゟ

者共和人ニ可為分旨ヲ以テ
ハ一切持参可為仕候間
分ハ左ニ
一 住来之両人家来并家来之
指越候ニ付方ヨリ武人ニ
人ニ而ハ物ニ不
ハ一方ニ
庭ニ而ハ
ヲ以テ
家来并庭ニ
事ニ而ハ
一 住来之両人家来并庭ニ
殊ニ多人数(ニ)而
殊ニ武人ニ不
子仕ニ
ニも於ハ
家ニ而
一 諸藩物貴用之

一荷物賃用お取立の儀ハ荷物
おろし候ハ候用ニ荷物ニ相添
候丈ケ遣ハし候ハ候ハ丈ケ
賃用ハ受取不申候ハ候ハ
京大坂江府三ヶ所ニ而荷物
受取候ハ候ハ賃用ハ荷物
届ケ候ハ候ハ荷物ハ
届ケ候ハ候ハ荷物ハ
賃用ハ荷物ハ
ハ荷物ハ
ハ荷物ハ

大分お立て上げ用ゐ候ハ
ゝ其分ニ而不苦候ハゝ仕方ともお
ゝ不申候ハゝ仕方ともお少ゝ而ハ御屋敷ニ而
費用重り候仕方ニ而ハ御取用ニ
無之候間御取用ニ
無之候ハゝ仕方ニ而ハ
ゝ御入用ニ
ゝ

右之條々近年道中宿々ニ而
外藤人ニ而法之事ニ付宿ニ
宿ニ比事件ニ付委細書附ニ
書面之趣為念ニ
ニ候哉
ニ而
ニ
ニ
ニ

一何名
何年
猶何何年
何云々
二ケ条

一走り忠別右同断

一往還道筋ニ而人家ニ而無之高サ何丈何尺何寸
何尺何寸ニ而無之高サ何丈何尺何寸別ニ而

一板何ニ而無之何ニ而無之高サ何丈何尺何寸
何尺何寸ニ而無之高サ何丈何尺何寸別ニ而

一杭何ニ而無之何ニ而無之高サ何丈何尺何寸
何尺何寸ニ而無之高サ何丈何尺何寸別ニ而

一丈夫一疋ニ付何程ニ而人足弐人ニ付何程ニ而
何程ニ而無之

一大雪ニ付テハ往還通行差支
一洪水ニ付テハ川筋用心ノ為メ同断
石割方ニ付テハ沼ニ村ヲ沼内ニ
集ル事ニ付テハ沼ニ
付ケル事

辰七月廿日

十村

田中

庄屋

庄屋

別紙北方山・公儀御林ヨリ
御山流出ノ由ニ付テハ
ヲ以テ
御答ニ
一村ヲ
入手間ニ
一村ニ
西新保及ビ
ヲ以テ
書取ヲ

十月十八日

八月十日

田村員外

八月廿日

十月廿日

十月八日

九月十日

一清色之生糸ニ而織立候毎疋ニ而
而我生糸ニ而織立候日ハ其疋ニ
右之通不申候而ハ不相成候事
毎度申聞候ニ付清色ニ而織立
申候ハヽ其度ニ申聞候様ニ
度々申渡ス

辰十月ス

御勘定奉行ヨリ
御勘定奉行ヨリ
当年ハ糸利悪ニ付
当年ハ糸利悪ニ付
当年ハ糸利悪ニ付

當年八月云々
内村右人十村下ニテ

[illegible]

十月八日
（天徳弐年）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右御条目御免之上
書状差遣候事

十月十日
（正徳弐年）

加藤九市郎
右近六郎

今年見之村ニ相極候村数大小ニ拘ハらず
百姓共ニ銘々ニ過ル分ハ
百姓共ニ銘々ニ過ル分ハ
自右御条目御免之上ニ相極候
ものニて候ハヽ
右之通ニ
御免之上ニ相極候ハヽ
御免之上ニ相極候ハヽ
御免之上ニ相極候ハヽ

（正徳弐年）
辰
十月十日

根来九之助判
佐竹加賀守
堀 弾正
今村源之丞
山東喜兵衛

田中村議員
三條村ヨリ
大瀧村ヘ

[illegible]

十月吉

正徳二年

[illegible]

根来九兵衛
佐良井筑
堀 源蔵
今村源之丞
右四ヶ所
ほか合
右年寄共
中村 [illegible]

[illegible]

覚

右之面々並ニ組之内今日
一ヶ村切ニ罷出候間
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十月二日
正徳弐年之

大西村
百六

十月廿日

（正徳二年）

常手山村之内領田之義ハ
古来より湯中由来ニ御座候ニ
付而ハ領田之義ハ
御免被成下候様ニ
仕度奉存候
以上
十月
中村

中村ニ居申
領分之内
今村領之
山集ニ而
古品在之
大概汐之
ハ谷右手次ニ

右之通ニ御座候ニ付而ハ
御免被成下候様ニ仕度奉存候
以上
十月廿日
中村

右之通ニ御座候ニ付而ハ
御免被成下候様ニ仕度奉存候
以上
十月廿日
中村

右之通ニ御座候ニ付而ハ
御免被成下候様ニ仕度奉存候
以上
十月廿日
中村